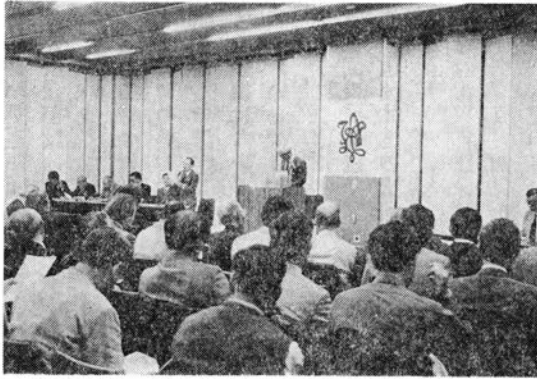




(全共連ビルで行われた総会風景)

二隊に海外登山基金から援助

平成二年度通常総会

平成二年度の通常総会が五月二十六日、東京・千代田区平河町の全共連ビルで開かれた。

この通常総会には、会員二五二九名(委任状二三一六名を含む)が出席、議案①平成元年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件②平成二年度事業計画案および収支予算案承認の件③平成二年度理事および評議員欠員補充の件④平成二年度除籍の件⑤その他について慎重審議した結果、いずれもこれを原案どおり可決、承認した。

議案審議に先立って松田雄一総務担当常務理事が会務報告を行ない、物故者黙祷のあと、挨拶に立った山田二郎

会長は主要次のように述べた。

「高所登山委員会から要請のあった中国・ナムチェバルワ登山許可申請は若手育成の意味からも理事会で承認した。七〇〇〇万円の海外登山基金運用については、第一回として、本会青年部、高所登山委員会による第一次パミール登山隊一九九〇に一〇〇万円、東海支部の日中友好天山山脈雪蓮峰登山隊に一五〇万円の援助を行なうことになった。

最近、中・高年者で、登山経験に乏しい人の入会が目立つが、立山での遭難事故などを踏まえ、集会・指導委員会で対策を講ずる必要がある。また、リーダーを訴える風潮に対処するため新年度から指導者賠償責任保険に加入することとした。

各委員会とも、文化的事業にも積極的に取り組む必要があり、とくに、図

岩菅山冬季オリンピック競技コースを既存のコースを利用することに関する要望について誤った報道が流れ、本会としては長野冬季オリンピック招致委員会に厳重抗議し、先方より謝罪を得ている。

去る三月、ヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラストがニューデリーで開催されたが、来年は日本で開催されることになる。この点については、目下



1990年(平成二年)

7月号(No. 541)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価一部 150 円

目次

- 平成二年度通常総会……………(1)
- 海外の山……………(3)
- 「遊牧の民のように」
ニューデリー出張報告
……………山田二郎…(4)
- 山岳遭難事故の防止について
……………富山県…(4)
- 総会関係資料……………(5)
- 東西南北……………(10)
- 「南極の山の清掃登山」ほか
図書紹介……………(11)
- 「ヒマラヤベダル越え」「笑って
よ北極点」
自然保護随想……………(12)
- 報告……………(13)
- 「名誉会員懇談会」「本社ヶ丸懇
親山行」「秋田支部 総会・山行
報告」「福岡支部だより」「熊本
支部総会報告」
会務報告……………(14)
- 5月理事会、支部長・支部事務
担当者合同会議、ルーム日誌、
タンポチェ僧院再建協力募金者
ご芳名、新入・復活会員
お知らせ……………(17)

▶日本山岳会事務取扱時間
月、火、木、土曜 10時～20時
水、金曜 13時～20時
日曜・祭日は休み
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時～20時
▶ルーム夏休み
8/13(月)～8/18(土)

は、見積りを取ったところ、予想以上の金額であり、改築の方向で準備をすすめているが、着工時期については現在検討中である。ただし、下水道整備は先行させなくてはならない。

組織改正については、皆様にお計りする段階ではないが、現在の横割委員会を、機能的に縦割に分離したいと考えており、来年までには成案をまとめる。

岩菅山冬季オリンピック競技コースを既存のコースを利用することに関する要望について誤った報道が流れ、本会としては長野冬季オリンピック招致委員会に厳重抗議し、先方より謝罪を得ている。

去る三月、ヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラストがニューデリーで開催されたが、来年は日本で開催されることになる。この点については、目下

お知らせテロフ電話

234 六六五九

ヒマラヤ関連四団体で協議し、別組織の委員会を設けて準備をすすめることにしている。

篠田名誉会員推せんに対する異議申し立てについては、会として正式な手順を踏んで決定したものであり、変更する余地はないが、今後も当事者間の話し合いを続ける。

最近、とくに感ずることは、本部、支部間の交流はもろんのことだが、他登山団体との交流を積極的に推進する必要がある。例えば日山協との間で、遭難対策、自然保護など個々のテーマで提携、協力関係を樹立することにより、日本登山界発展のため寄与できるのではない。

会長就任以来、日本山岳会は山に登るといふ基本理念の、アルパインクラブ主眼の運営がなされなければならぬと考えている。そのためにも、命を、仲間を、自然を大切に、という三つの目標を掲げたが、最近の遭難事故をみると、山に登って降りてくるという原則からかけ離れた、降りてくることを考えない行為が目立つ。この基本原則の啓蒙と、死者にムチを打つようだが、感傷的にならず、徹底的な原因究明が必要ではないか。

平成元年度事業報告(別掲)は松田常務理事が行なったが、同理事はとくにタンポチエ僧院再建募金にふれ、五

月二十五日現在の募金は二六六万円であると報告。近く建設着工される同僧院の一〇〇〇万円の募金目標達成のため、会員各位のなご一層の協力を要請した。

収支決算、財産目録(別表)については、西村政晃財務担当常務理事が説明。

それによると同年度の収支合計は一億二四六万六二六六円と、予算額四七七〇万五〇〇〇円に対し、七五七九万一二六六円の黒字。この数字は前年度に引き続いて九二%という会費の高納入率と、三国友好登山隊剰余金繰入れという、二つの要因が大きく寄与している。

一方支出面では、予算額四六七一八八五〇円に対し、決算額一億一九五九万六三二二円で、雑費として故横名誉会員の山岳会葬費用を計上。ルーム改装、山研改築などの長期計画積立金支出(同積立金積み増)に三六三万九二四八円、長年の課題であった海外登山基金新設に七〇〇万円の支出増が目立つものの、他項目については、前年度に引き続いて健全、安定化したものとなった。

財産目録については、資産合計二億三九一〇万五八三円、負債合計六八八万七九八八円、差引正味財産は二億三二二万二五九五円である。

第二十六回 観光週間(八月一日～七日)の目的

- ① 観光道徳の高揚
- ② 観光地の美化

総務委員会

これらの数字は何れも公益法人の会計基準によるものである。

これに関連して太田敬監事からは、平成元年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録は正確妥当である旨監査報告がなされた。

平成二年度事業計画案(別掲)および収支予算案(別表)については、同じく松田、西村両常務理事から説明があった。

事業計画では、有楽町マリオンでの登山医学に関する講演会(七月十六日)山形・蔵王温泉での全国支部懇談会、支部事務局担当者会議(十月十三～十四日)、高輪プリンスホテルでの年次晩餐会(十二月一日)、会員の関心の高い「高所に於ける安全登山」シンポジウム(場所未定、三月)や、青年部が主体となる山登りの実践、三国合同登山公式報告書発行、会員名簿一九九〇年版の発行、若手育成を目的としたソ連・パール国際キャンプ参加(七月～八月)が目玉となっている。

これに伴う収支予算も、海外登山基金運用受取利息四二〇万円を見

込んだの、収入五三六五万円に置かれ、一方支出では、会員名簿一九九〇年版製作一〇〇万円、海外登山補助費三〇〇万円、大型ビデオプロジェクト購入七五万円などの増加で、五三六二万三〇〇〇円と、収支とも前年度をやや上回る規模に定められた。

平成二年度理事および評議員欠員補充については、国際化を重視、海外連絡強化のため、海外事情に詳しい神崎忠男氏を新理事に、故古市義孝評議員の後任には、同じ東北ブロックより福島支部の佐藤光氏を選出した。

平成二年度除籍については、対象者リスト中、知った名前があれば、年度中、極力会費納入を働きかけて欲しい旨、要望がなされた。

なお、議案審議に当たっては、上原泰行、堀内章雄、島田義昭、田畑真一の各会員から質疑が出され、山田会長、村木潤次郎副会長および各担当理事から応答があった。

総会終了後は同会場で懇親会に移行、吉澤一郎名誉会員が「皆さんの山幸と日本山岳会の発展を祈る」と乾杯の音頭をとり、なごやかな会員交歓の

幕が切って落された。

当日の会務報告によれば、会員数は名譽会員二四名、永年会員三三名、終身会員六九名、通常会員四三八二名の計四五〇八名。平成元年度新入会員一九六名、復活会員一七名、物故会員三〇名、退会二六名、除籍五七名で、物故会員は次のとおり。敬称略。

植有恒(名譽会員)、西堀榮三郎(同)、小原勝郎(同)、塩田輔雄(永年会員)、仲西政一郎、佐藤耕三、寺村泰一、菊井巳喜男、佐藤篤孝、新貝勲、馬場哲也、田中健康、曾山志計雄、福田文二、及川敬一、野口秋人、吉村健次郎、木南金太郎、白田昌一、原始、小野利次、古市義孝、佐野昇三、窪田建治、中田清兵衛、宇田正治、杉山元治、小田島房志、村岡周典、南崎大海。

(写真・小倉厚/文責・高田眞哉)

新役員・評議員紹介

◎新理事

神崎忠男(会員番号六〇〇二)

在学中は本会学生部の中核として活躍。一九七〇年のエベレスト登山隊に参加。一九七一一七六年まで理事。一九八一〜八四年常務理事を務めた後、一九八五年より日山協常務理事として海外委員会委員長を歴任。UIAA総会・理事会等に数多く出席している。今後は、海外連絡、国際化の面での活

海外の山

遊牧の民のように

六月に入っても、モンゴルの草原は予想外の冷え込みが続く、夜のゲル(フェルト製円型モンゴルテント)は、しばしば薪ストーブであたたためねばならない。これまでのモンゴルの旅では、燃料と言えは家畜の糞を乾燥させた「アルガル」に限られていたのに、薪が使えるのは私たちが北の山岳地に近い所で幕営しているからだ。

チンギス・ハーンの陵墓を求めて何か所かキャンプを移動させながら、モンゴルと日本の調査メンバーたちは神経質なほどに環境保全に気をつけている。

モンゴルの遊牧の民は、草原にほとんど何の痕跡も残さずに次の地点へ移牧することを習慣としている。私たちも当然そのルールを守らなければならない。単三乾電池一本でも美しいヘンティイの山や草原に残すわけにはいかない。倒木以外の薪も避けるようにしている。

仲間からの便りで、ことしもエベレストが大にぎわいであること、たとえば米ソ中合同隊の何と二十人もが登頂に成功したり、日本人神田道夫氏の熱気球による頂上越えが残念ながら失敗したこと、海拔ゼロのカルカッタから八百*、四か月がかりでオーストラリア人がてっぺんにたどり着いたことなどをゲルの中で知った。父エドムントの初登頂から三十七年、ピーター・ヒラリーがついにヒラリー・ステップを越えて頂上に立ったこともその一つである。うむ、「父子登頂」というのもあったか、とヘンに感心してしまった。

そのヒラリー卿の提唱する「ヒマラヤン・アドベンチ

ヤー・トラスト」について、草の緑日々に濃い、美しいモンゴルにいて考えることが多い。ヒマラヤ山脈の自然資源を保護し、地域住民の習慣と利益を守るためにそこを訪れる人々に一種の倫理規約を課す、というのがそのねらいであろうと思う。

どのように趣旨を展開できるか、誰が登山者やトレッカーをコントロールし得るか、困難は多いと思われるが、環境汚染が地球規模の大問題となっている現在、世界的なネットワークでこうした運動を進めることは登山家の義務と言っていいたいだろう。

ただ、エコロジーに関するすべての局面に共通することだが、事を現地ヒマラヤでの状況だけにしばってしまつては不十分と、私は考える。

たとえば、モンゴル遊牧民のように「何の痕跡も残さずに」ヒマラヤ地域から帰ることを一つの倫理としよう。高所用ガスボンベ、乾電池、発泡スチロール製梱包材、ウイスキー・ボトル、使い捨てライターなどなど私たちは何と焼却しにくいものばかり神々の座に運んでいくことだろう。

「とにかく燃やせるものを」が、一例としてヒマラヤやモンゴル高原をめざす者の合い言葉でなければならぬ。そのためにはロンドンや東京やオーストラランドの並みいる山道具メーカーたちを巻きこむだけでなく、洋酒会社や、梱包業者、そしておそらくは町のスーパーマーケットの過剰包装までも(時にはスポンサーになつてもらつて言いにくくても)問題にしなければならぬかもしれない。ヒマラヤの自然保護を含めて環境問題というのは、結局日常から発するしかないと思う。

(モンゴル高原で 江本嘉伸)

海外の山

躍が期待される。

●新評議員

佐藤 光(会員番号三九六七)

一九五二年三月入会。福島支部では一九六五〜七三年支部事務局を担当。以後今日まで支部委員として活躍。

報告

ニューデリー出張報告

山田 二郎

去る四月二十九日から三十一日迄、インドのニューデリーで開催されたヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラストの第一回会議に招待され、同トラスティーの一員である田部井さん、日山協の沢村副会長、当会々員吉田宏、鈴木郭之(香港より参加)の両氏ともども出席してきました。

このトラスト運動はヒラリー卿をパトロンとし、インド登山財団会長のコリー氏を会長として一九八八年六月十七日にインドのニューデリーで設立されたもので、翌一九八九年十月十四日には香港でその設立総会と慈善ディナーが催され、わが国からは当会の前理事田部井淳子さんがトラスティーとして参加しておられるほか、ネパール山岳協会々長カドカ殿下、パキスタン山岳会のミルザ会長、英国山岳協会のボニントン会長、UIAAの自然保護委

他に日本野鳥の会福島支部事務局長も引き受け、自然保護についても種々のお世話をされている由。今回は昨年十一月物故された古市義孝氏の後を受けて、同氏の残任期間、評議員を務めることになった。

員長ヴァンデブル委員長、アメリカン・ヒマラヤ基金のブルーム会長など著名な登山家がトラスティーとして参加しているほか、オブザーバーとしてソ連登山連盟のミスロフスキー会長、中国登山協会の史占春会長も加わって、ヒマラヤ地域での自然環境破壊を防ぐための諸活動を始めることを目標とすることを決議しています。

私としては、当初このトラストの活動分野があまりに広範囲であり、具体的にどのような活動計画があるのか、具体的にはどのような活動計画があるのか、具体的なまま参加を躊躇しておりましたが、関係のある会員の方々や、香港での発会式に出席頂いた吉田宏、中島寛、神崎忠男、鈴木郭之の諸氏の情報に基いて検討した結果、会としても田部井さんがトラスティーとして既に活動に入られていること、わが国からヒマラヤ山域を訪れた遠征隊、トレッカーの

体 第 166号
平成2年5月14日

(社) 日本山岳会会長 殿

富山県知事 中 沖 豊
(富山県山岳遭難対策協議会会長)

山岳遭難事故の防止について (依頼)

謹啓 借春の候、貴台にはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃、登山活動を通じ健全なスポーツマンの育成とスポーツの振興に尽力されていることに対し、深く敬意を表します。

さて、昨年末から今年初めにかけて、本県の北アルプス銀岳方面で冬山遭難が多発しました。幸い、本県の山岳警備隊員や山岳関係者の献身的かつ適切な救助活動により、5パーティー(17人)が全員無事に救出されたところであります。

今回の一連の遭難の原因を調査したところ、必ずしも悪天候のみに起因したものとは言えず、登山者の山岳気象に対する研究不足や装備・食糧の不足、力量の不足等も大きな原因であると指摘されております。本県では、昭和41年に全国に先駆けて富山県登山届出条例を定め、特に危険な地区及び期間に登山する者に対し、登山届の提出を義務づける等、山岳遭難事故の防止及び遭難時の対策に努めてきたところでありますが、今回の多発遭難を教訓に今後各登山者に対し登山技術の研鑽と遭難防止のための事前準備の徹底を強力に指導する必要があると考えております。

つきましては、貴連盟におかれましては、この趣旨を十分御理解のうえ、自主的な遭難防止策を確立されるとともに貴管下の会員に対して冬山登山の事故防止に万全を期するよう、より一層の御指導を頂たく格別の御配慮をお願いいたします。

数などを勘案すれば、このような企てに対し応分の貢献をすることは、今や登山大国ともなった日本登山界としては避けて通ることのできない責任ではないかと考え、理事会の議を経て参加した次第です。

ニューデリーでの会合は流石にキャプテン・コリーの地元だけあってたいへんな熱意をもって開催され、諸外国からの参加者八ヶ国三十一名を含め総員一八三名の規模のものとなり、初日のガンチー印度政府環境庁長官の挨拶に始まり、三十日、三十一日の二日間

に亘って午前・午後とミツチリ各講師のスピーチがあり、夜はシッキム観光局、エア・インディア主催のレセプションなど、なかなかの盛会でした。

現在田部井トラスティーを中心に別個の組織体を設け、当会のほか日山協、HAJ、労山などの諸団体が相協力して、わが国の国際的責任の一端を果すべく、来秋の日本での会合(今年秋にはオーストラリアでチャリテイーディナーが企画されている)に向けての企画が進められています。会合の場所、規模などは、今後前記組織体を中心に

平成2年度除籍対象者(平成3年3月31日除籍予定)

会員 番号	氏 名	会員 番号	氏 名	会員 番号	氏 名	会員 番号	氏 名	会員 番号	氏 名
03416	福田 泰三	07334	飛塚 功一	07959	前田 晃宏	08507	高山 裕章	09488	片谷 恒三
05793	佐伯 克美	07464	宮波 正行	07975	遠藤 日出夫	08387	長谷川恒雄	09640	白井 雅己
05818	尾上 徹	07538	清水 功	08001	大谷 映芳	09080	原 邦三	09693	大迫 善洋
06011	東京都立大 学山岳部	07543	大橋 典夫	08063	波屋 博敏	09123	中川 邦彦	09701	小田 典弘
06569	塩田 伸雄	07598	木下 深	08135	久間 弘信	09250	斎藤 昌史	09761	佐渡多恵子
06860	村上 肇	07808	尾崎 隆	08199	小野 勝昭	09284	小川 健一	09840	熱田 渉
06874	亀井 康	07862	斉藤 弘	08231	三井 貞彦	09387	工藤 豊	09960	月館 秀恒
07187	亀山 義夫	07935	堀内 正倫	08236	林田 孝夫	09476	椿葉 伸男	10147	後藤 茂元

(7.5 現在)

具体化される手筈となっておりますが、当会としても、このトラスト活動の意義を理解し、協力を致すべきと考えております。

帰国後、去る四月十六日、田部井さんを中心に、当会、日山協、H A J、労山の関係者の会合がもたれ、来秋のトラストの日本での会合開催について全面的にご協力申し上げようとの合意がなされております。

収 支 計 算 書

平成元年4月1日から平成2年3月31日まで

海外諸関係費	200,000	155,168	44,832
山岳研究所運営費	2,181,000	2,046,201	134,779
その他事業費	1,800,000	1,875,079	-75,079
印刷・製本費	0	1,013,726	-1,013,726
通信運搬費	3,500,000	3,208,419	291,581
事業費計	23,918,950	22,749,488	1,169,462
2.管理費			
給料・手当	7,200,000	7,133,000	67,000
文具・消耗品費	150,000	139,892	10,108
印刷・製本費	1,000,000	1,172,943	-172,943
旅費・交通費	700,000	1,269,396	-569,396
通信・運搬費	1,000,000	942,948	57,052
火災保険料	100,000	80,500	19,500
修繕費	100,000	180,384	-80,384
租税公課	600,000	427,260	172,749
光熱水料費	500,000	406,436	93,564
電話料	300,000	283,056	16,944
会議費	300,000	198,791	101,209
什器備品費	100,000	62,521	37,479
振替手数料	300,000	271,020	28,980
支部運営費	3,100,000	2,989,500	110,500
福利厚生費	150,000	137,829	12,171
事務所管理費	700,000	703,796	-3,796
その他管理費	1,300,000	1,248,786	51,214
負担金	0	135,000	-135,000
雑費	400,000	3,216,132	-2,816,132(注)1
管理費計	18,000,000	20,999,190	-2,999,190
3.固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
4.特定預金支出			
図書出版研究基金 支出	0	149,176	-149,176
長期計画積立金支出	3,000,000	3,639,248	-639,248(注)2
登山特別基金支出	0	469,270	-469,270
海外登山基金支出	0	70,000,000	-70,000,000(注)3
終身会費積立金支出	0	590,000	-590,000
退職給与積立金支出	0	1,000,000	-1,000,000
特定預金支出計	3,000,000	75,847,694	-72,847,694
5.予備費			
予備費	1,800,000	0	1,800,000
当期支出合計(C)	46,718,950	119,596,372	-72,877,422
当期収支差額 (A)-(C)	986,050	3,899,894	-2,913,844
次期繰越収支差額 (B)-(C)	21,923,949	24,837,793	-2,913,844

(注) 1. 植名譽会員の山岳会費費用 ¥2,487,000
2. 長期計画積立金支出 ¥3,639,248
(同積立金積み増し ¥3,000,000)
3. 海外登山基金新設 ¥70,000,000

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	350,000	392,620	-42,620	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	2,955,000	45,000	
復活会費収入	0	240,000	-240,000	
通常会費収入	39,000,000	40,107,000	-1,107,000	
終身会費収入	0	590,000	-590,000	
会費・入会金 収入計	42,000,000	43,892,000	-1,892,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,200,000	1,353,856	-153,856	
印税収入	20,000	32,089	-12,089	
刊行物売上収入	1,000,000	273,200	726,800	
その他事業収入	700,000	1,306,600	-606,600	
山研使用料収入	1,135,000	1,580,199	-445,199	
事業収入計	4,055,000	4,545,944	-490,944	
4. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
5. 雑収入				
受取利息	800,000	3,795,219	-2,995,219	
雑収入	500,000	70,870,483	-70,370,483(注)1	
雑収入計	1,300,000	74,665,702	-73,365,702	
6. 特定預金取崩収入				
図書出版基金 取崩収入	0	0	0	
7. 特定預金運用収入				
特定預金運用収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	47,705,000	123,496,266	-75,791,266	
前期繰越収支差額	20,937,899	20,937,899	0	
収入合計(B)	68,642,899	144,434,165	-75,791,266	

(注) 1. 三国友好登山隊剰余金繰入れ

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備考
I. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,617,950	9,409,269	1,208,681	
図書費	950,000	938,959	11,041	
調査研究費	800,000	818,001	-18,001	
指導費	870,000	824,452	45,548	
支部関係費	3,000,000	2,460,214	539,786	

流動負債合計		3,587,988
2. 固定負債		
退職給与引当金	3,300,000	
固定負債合計		3,300,000
負債合計		6,887,988
[3] 正味財産の部		
正味財産		232,212,595
(うち基本金)		8,000,000
(当期正味財産増加額)		79,046,288
負債及び正味財産合計		239,100,583

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は、期末退職給与の要支給額の115%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金・預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井)	2,380,000	0	0	2,380,000
〃(日本)	420,000	0	0	420,000
〃(中央)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計(基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現金預金	16,487,159	24,739,781	
未収会費	2,953,500	3,686,000	
仮払金	2,000,000	0	
合 計	21,440,659	28,425,781	
前受会費	223,000	171,000	
預り金	279,760	3,416,988	
合 計	502,760	3,587,988	
次期繰越収支差額	20,937,899	24,837,793	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	36,006,808	0	36,006,808
什 器 備 品	4,780,500	0	4,780,500
合 計	40,787,308	0	40,787,308

正味財産増減計算書

平成元年3月31日～2年3月31日

科 目	金	額
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	3,899,894	
図書出版研究基金	149,176	
長期計画積立金	3,639,248	
登山特別基金	469,270	
海外登山基金	70,000,000	
終身会費積立金	590,000	
退職給与積立預金	1,000,000	
棚卸資産増加額	298,700	80,046,288
増加額計		80,046,288
II. 減少の部		
1. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	1,000,000	
減少額計		1,000,000
当期正味財産増加額		79,046,288
前期繰越正味財産額		153,166,307
期末正味財産合計額		232,212,595

貸 借 対 照 表

平成2年3月31日現在

科 目	金	額
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金	159,386	
振替貯金	649,068	
普通預金	2,570,575	
定期預金	21,360,752	
未収会費	3,686,000	
棚卸資産	1,957,870	
流動資産合計		30,383,651
2. 固定資産		
基本財産		
貸付信託	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
その他固定資産		
土地	46,297,170	
建物	36,006,808	
什器備品	4,780,500	
図書出版研究基金	3,940,000	
長期計画積立金	16,909,085	
登山特別基金	15,213,369	
海外登山基金	70,000,000	
終身会費積立金	4,270,000	
退職給与積立金	3,300,000	
その他固定資産合計	200,716,932	
固定資産合計		208,716,932
資産合計		239,100,583
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前受会費	171,000	
預り金	3,416,988	

正味財産	232,212,595
------	-------------

注1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳・山岳複製版等	952,520
服飾品・その他	クラブタイ ペンダント等	1,005,350
合 計		1,957,870

注2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所および図書室	金 額 (円)
場所 東京都千代田区四番町 5 番 4	
構造 鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下 1 階付 5 階建	
(事務所) 区分所有建物 1 階部分 103.32 m ²	
宅地持分 1,124.56 m ² × 339/10,000 = 38.122584 m ²	72,720,170
(図書室) 区分所有建物 1 階部分 55.22 m ²	
宅地持分 1,124.56 m ² × 176/10,000 = 19.792256 m ²	
計 158.54 m ² 宅地持分 57.91484 m ²	
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村上高地国有林 114 い 林小班	
構造 鉄筋コンクリート造 (一部木造) 1 棟 100.69 m ²	9,583,808
合 計	82,303,978

2. 什器備品

品 名	取 得 年月日	取得価格	所在
大テーブル (2 台セット) チーク材 750 × 1200 × 720	48. 7. 31	164,200	上高地
ソファセット, チーク材レザー張	48. 7. 31	178,000	上高地
書庫内移動書架一式, コンパックル	53. 2. 10	1,500,000	図書室
応接セット一式, 張布イス, テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	談話室
閲覧用テーブル (2 台), 木製	53. 9. 28	250,000	図書室
ライティングビューロー, 木製	54. 6. 23	280,300	図書室
テレビ, シャープ CI-2601 (寄贈品)	55. 6. 4	80,000	談話室
ビデオカセットレコーダー, シャープ VC-7000	55.12.27	116,000	談話室
フィルム収納キャビネット (スチール 製)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器, 木製 3 段	56. 9. 12	200,000	図書室
書棚, 木製 2 段	56.12.22	500,000	図書室
16 mm 映写機 16-CL(MO)	61. 5. 13	156,000	図書室
MS パウチ H-140	61.10.17	95,000	事務所
東芝パーソナルワープロ JW-R 70 F II	62. 3. 12	89,000	事務所
木製書架ガラス戸付 (2 台)	62. 9. 24	700,000	図書室
合 計		4,780,500	

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈品)

1. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	平成元年度 受入冊数	240 冊
洋 書	平成元年度 受入冊数	87 冊
		8,309 冊
		2,926 冊

財 産 目 録

平成 2 年 3 月 31 日現在

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	159,386	
振替貯金		
東京地方貯金局	649,068	
普通預金		
協和銀行市ヶ谷支店	2,258,706	
三菱銀行市ヶ谷支店	140,415	
三和銀行本郷支店	87,623	
中央信託銀行本店	5,451	
三井信託銀行新宿西 口支店	61,560	
日本信託銀行本店	16,820	
定期預金		
協和銀行市ヶ谷支店	21,360,752	
未収会費 395 名分	3,686,000	
棚卸資産 *1	1,957,870	
流動資産合計		30,383,651
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託		
三井信託銀行本店	2,380,000	
日本信託銀行本店	420,000	
中央信託銀行本店	5,200,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2) その他固定資産 *2		
土地 57.9148 m	46,297,170	
建物 259.23 m	36,006,808	
什器・備品	4,780,500	
図書出版研究基金 (定期 預金・協和市ヶ谷)	3,940,000	
長期計画積立金 (定期 預金・協和市ヶ谷)	13,269,837	
長期計画積立金 (定期 預金・協和市ヶ谷)	3,639,248	
登山特別基金 (定期預 金・協和市ヶ谷)	15,213,369	
海外登山基金 (定期預 金・協和市ヶ谷)	70,000,000	
終身会費積立金 (定期 預金・協和市ヶ谷)	4,270,000	
退職給与積立金 (定期 預金・協和市ヶ谷)	3,300,000	
その他固定資産 合計	200,716,932	
固定資産合計		208,716,932
資産合計		239,100,583
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前受会費 21 名分	171,000	
預り金	3,416,988	
流動負債合計		3,587,988
2. 固定負債		
退職給与引当金	3,300,000	
固定負債合計		3,300,000
負債合計		6,887,988

5. 雑収入			
受取利息	5,000,000	800,000	4,200,000
雑収入	500,000	500,000	0
雑収入計	5,500,000	1,300,000	4,200,000
6. 特定預金取崩収入			
図書出版基金取崩収入	0	0	0
当期収入合計(A)	53,650,000	47,705,000	5,945,000
前期繰越収支差額	24,837,793	20,937,899	3,899,894
収入合計(B)	78,487,793	68,642,899	9,844,894

科 目	予算額	前年度 予算額	差 異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,913,000	10,617,950	295,050	
図書費	950,000	950,000	0	
調査研究費	860,000	800,000	60,000	
指導費	920,000	870,000	50,000	
支部関係費	3,500,000	3,000,000	500,000	
海外諸関係費	200,000	200,000	0	
山岳研究所運営費	2,200,000	2,181,000	19,000	
その他事業費	1,600,000	1,500,000	100,000	
印刷・製本費	500,000	300,000	200,000	
通信運搬費	3,500,000	3,500,000	0	
海外登山補助費	3,000,000	0	3,000,000	
事業費計	28,143,000	23,918,950	4,224,050	
2. 管理費				
給料・手当	7,600,000	7,200,000	400,000	
文具・消耗品費	150,000	150,000	0	
印刷・製本費	2,000,000	1,000,000	1,000,000	
旅費・交通費	1,300,000	700,000	600,000	
通信・運搬費	1,200,000	1,000,000	200,000	
火災保険料	100,000	100,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
租税公課	600,000	600,000	0	
光熱水料費	500,000	500,000	0	
電話料	300,000	300,000	0	
会議費	500,000	300,000	200,000	
什器備品費	170,000	100,000	70,000	
振替手数料	300,000	300,000	0	
支部運営費	3,500,000	3,100,000	400,000	
福利厚生費	160,000	150,000	10,000	
事務所管理費	750,000	700,000	50,000	
その他管理費	1,500,000	1,300,000	200,000	
負担金	0	0	0	
雑費	500,000	400,000	100,000	
管理費計	21,230,000	18,000,000	3,230,000	
3. 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	750,000	0	750,000	
4. 特定預金支出				
長期計画積立金支出	2,000,000	3,000,000	-1,000,000	
5. 予備費				
予備費	1,500,000	1,800,000	-300,000	
当期支出合計(C)	53,623,000	46,718,950	6,904,050	
当期収支差額(A)-(C)	27,000	986,050	-959,050	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	24,864,793	21,923,949	2,940,844	

2. 絵 画

題 名	種類, 号数	作 者 名	掲載, 保管場所
白 馬 岳	油 A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富 士 山 麓	油 A-25	茨木猪之吉	日本民族資料館
田 代 池 の 白 樺	油 変形-6	中村清太郎	談 話 室
群 狼	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊 豆 半 島	油 一 10	茨木猪之吉	松本アルプス 山岳館
針 の 木 峠	油 一 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス 山岳館
初 冬 の 両 神 山	油 一 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥 (カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールドグラス	エッチング		図 書 室
モンブラン	エッチング		松本アルプス 山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラーギ ントワイト	図 書 室
ユングフラウ	油	山里 寿男	集 会 室
洞 沢 より 北 穂 高	水 彩-6	山里 寿男	松本アルプス 山岳館
槍 ケ 岳 初 夏	油 一 10	中村清太郎	集 会 室
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談 話 室
北 穂 高 滝 谷	油 一 25	足立源一郎	談 話 室
或 朝 の 槍 ケ 岳	油 一 25	足立源一郎	集 会 室
北 穂 高 岳 主 峰	油 一 25	足立源一郎	談 話 室
槍 ケ 岳	油 P 8	足立源一郎	集 会 室
タンボチエの僧院	水 彩-4	清野 恒	松本アルプス 山岳館
シェルパニの親子	水 彩-4	清野 恒	松本アルプス 山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス 山岳館
ブカヒルカ・ノルテ	水 彩	渡辺 九郎	事 務 室

* 他の絵画, 写真省略

3. フィルム

「マナスルに立つ」他 62 点

社団法人日本山岳会平成元年度の収支計算書, 正味財産増減計算書, 貸借対照表および財産目録を監査し, 正確妥当なことを認めます。

平成2年4月16日

社団法人 日本山岳会

監事 太田 敬

監事 飯野 亨

収 支 予 算 書 (案)

平成2年4月1日から平成3年3月31日まで

科 目	予算額	前年度 予算額	増 減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	400,000	350,000	50,000	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	3,000,000	0	
通常会費収入	40,000,000	39,000,000	1,000,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入会金収入計	43,000,000	42,000,000	1,000,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,800,000	1,200,000	600,000	
印 税 収 入	20,000	20,000	0	
刊行物売上収入	800,000	1,000,000	-200,000	
その他事業収入	800,000	700,000	100,000	
山研使用料収入	1,330,000	1,135,000	195,000	
事業収入計	4,750,000	4,055,000	695,000	
4. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	

重広、磯野他 本会

6月10～11日 第8回日本登山医学シンポジウムに協力

藤巻悦雄(会長) 昭和大

10月15日 シンポジウム「登山用雨具」

安田 武、斎藤利忠他 青山学院大

(3) 講習会

4月2日 山岳地図の作り方実地講習会

講師 児玉 茂 箱根明神岳

4月4日 山岳地図の作り方Ⅲ

講師 児玉 茂 本会

11月18～19日 岩登り講習会

講師 中山 茂樹 日和田山

1月20～21日 冬山登山技術講習会

講師 中山 茂樹 八ヶ岳

2月24～26日 スキー登山講習会

根子岳

3月17～19日 スキー登山講習会

八甲田

3月31～4月2日 スキー登山講習会

笹ヶ峰

(4) 展覧会

4月8日 第26回「この一本展」松方三郎の山の本 本会

2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業

*上高地山岳研究所を4月28日～10月22日まで開所

*山に関する貴重なフィルム, スライド等の充実

*山の高さに関する委員会(国土地理院)への協力

*山岳博物館準備のための資料収集と整理

*山岳図書の充実

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

*各大学医学部山岳部による夏山診療所の開設に協力

槍ヶ岳他 7月～8月

10月25～26日 山岳遭難に対する検討会の開催 本会

4. 自然保護活動の推進

10月7～8日 全国自然保護集会「一緒に歩いて山の自然保

護を考えよう」 戸隠

10月～3月 尾瀬入山規制について検討 本会

11月17日 「冬季オリンピック新設コースを岩菅山山城以外

の県内既存施設の改修によって実施すべきことに

関する要望書」を環境庁長官, 文部大臣, 長野県

知事, 長野市長, 長野冬季オリンピック招致委員

会, JOC 会長等に提出

3月30～31日 ヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラスト

ニューデリー会議に出席

5. 海外登山の企画および海外との交流

*海外登山基金の創設

5月～6月 婦人懇談会有志 ロンボク島リンジャニ山登山

5月～7月 集会委員会有志 ペルーアンデス, ワスカラン等

登山

6. 機関誌などの発行

*「山岳」第84年(1989年)号の発行

*「山岳」総索引の発行

*会報「山」第526号～第537号の発行

*学生部年報第8号の発行

*「登山医学」第9巻の発行に協力

7. 国内および外国山岳団体との連絡, 情報交換

*国内関係団体(日山協, 都岳連, その他)との密接な連絡

*海外登山団体との機関誌および情報の交換

8. その他目的を達成するために必要な事業

*タンボチェ僧院再建基金に協力

*未来ビジョン設定のための会員アンケートのまとめとこれを

踏まえた検討会の実施

平成元年度事業報告

(平成 1.4.1～2.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催

(1) 集会, 講演会

4月8日 第20回「山岳図書を語る夕べ」

島田 巽, 田口二郎 本会

4月15～16日 探索山行(火山探索) 秋田駒ヶ岳

4月15～16日 婦人懇談会, 関西, 京都支部合同懇親山行

伊吹山

4月23日 新入会員との日帰りハイク 弘法山

5月11日 講演会「自然保護考」 渡辺 兵力 本会

5月17日 榎 有恒名誉会員の日本山岳会葬を挙

千日谷会堂

5月26日 支部長会議 本会

5月26日 通常総会の開催 番町グリーンパレス

6月2, 3日 第43回ウェストン祭 信濃支部 上高地

6月16～18日 若葉会山行(富山支部, 馬場島) 大辻山

6月28日 講演会「石間流登山術(第2回)」

石間 信夫 本会

7月22日 リンジャニ登山報告会 婦人部有志 本会

8月26～27日 山研を考える集い 上高地山研

9月3日 自然保護山行「富士の自然を訪ねる」

富士山五合目

10月4日 講演会「中高年登山の救急対策」

関口 令安 本会

10月7日 自然観察山行 黒姫山, 飯綱山

10月21日 第21回図書交換会 本会

10月22日 現地小集会 集会委員会 裏妙義

10月23日 南米ペルーアンデス登山報告会

神山, 嶋崎 本会

10月25～26日 自然観察山行 秩父・四阿山

10月28日 支部事務局担当者会議

山陰支部 米子皆生グランドホテル

10月28～29日 全国支部懇談会山陰大会

山陰支部 伯耆大山

11月12日 現地小集会 吾妻耶山

11月11～12日 探索山行「温泉を科学する」

田中 収 渋ノ湯, 唐沢鉱泉他

11月16日 会員懇談会「新入会員のつどい」 本会

12月2日 支部長会議 本会

12月2日 年次晩餐会 私学会館

12月3日 第26回マラソン大会(学生部) 皇居周辺

12月6日 登山報告会 ウルグムスターグ, エヴェレスト

北極アイスウォーク 本会

12月7日 冬山登山情報交換会(学生部)

宮下秀樹他 本会

12月17日 現地小集会 大菩薩峠

1月11日 冬山報告会 学 生 部 本会

1月13～15日 スキー懇親会 八方尾根

2月4日 現地小集会 加波山

2月7日 自然保護講演会 藤平 正夫 本会

2月17日 講演会「冬期マッキンリー登山と気象遭難」

奥山 巖, 大蔵喜福他 本会

3月7日 第16回新入会員オリエンテーション 本会

3月17日 第18回山岳史懇談会

吉沢一郎, 望月達夫 本会

(2) 研 究 会

4月6日 シンポジウム「三国登山のタクティクス」

* 山に関する貴重なフィルム、スライド、テープ、アルバム等の複製および貴重な資料の収集、整備、管理

* 山岳資料の整理 (資料委員会)

* 山の高さに関する委員会 (国土地理院) に協力

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

* 岩場での遭難救助講習会 小川山 6月

* 夏山診療所の開設に協力 槍ヶ岳他 7月～8月

* 遭難救助講習会 未定 11月

* 高層気象、雪崩についての講習会 11月、12月

* アイスクライミング講習会 未定 12月

* 「高所に於ける安全登山」シンポジウム 未定 3月

4. 自然保護活動の推進

* 自然観察山行 富士山 5月

* 自然観察山行 両神山 2月

* 自然保護全国集会 未定 9月

* 自然保護に関する講演会、シンポジウム 未定 7月、11月

* 自然環境保全のための現地視察 裏岩菅山 5月

* 自然環境保全のための現地視察 会津駒 10月

* JAC の自然保護活動の歴史の調査、編集

5. 機関誌などの発行

* 「山岳」第85年(1990年)号の発行

* 「山岳」総索引の発行

* 会報「山」第538号～第549号の発行

* 三国合同登山公式報告書発行

* 「登山医学」第10巻の発行

* 図書目録(追補)の発行

* 「日本の山」スライド第2集の作成

* 会員名簿1990年版の発行

6. 国内および外国山岳団体との連絡、情報交換

* 国内関係団体(日山協、都岳連、その他)との密接な連絡

* 海外登山団体との機関誌および情報の交換

* 子連バミール国際キャンプ参加(青年部、高所登山)

7月～8月

* ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト国際会議の準備協力

10月

7. その他目的を達成するために必要な事業

* 山岳図書拡充をはかる

* その他目的を達成するために必要な事業を行う

お知らせ このほど会員小倉茂輝氏を通じ、テレビ朝日のご厚意により映画「オーロラの下に」の特別観賞券が会員一人当たり2枚提供されました。

近くお手許に送付致しますので、ご利用下さい。

南極の山の清掃登山
この度カナダのヴァンクーバーにあるAdventure Network International社から同社の企画を知らせる資料が届いた。
南極大陸の最高峰を有するエルブ



平成2年度事業計画(案)

(2.4.1～3.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

* 山岳図書を語る夕べ 田村俊介 本会 4月20日

* この人と語ろう「山野井泰史氏」 本会 4月26日

* 山の科学に関する探索山行 未定 4月、9月

* 剣岳合宿(青年部) 剣岳 5月2～6日

* 支部長会議 全共連ビル 5月26日

* 支部事務局担当者会議 全共連ビル 5月26日

* 第14回若葉会山行 宮城・禿岳 6月8～10日

* チョオユー、マカルー登山報告会 本会 6月

* 第44回ウェストン祭 上高地 6月2、3日

* 谷川岳合宿(青年部) 谷川虹虹寮 6月2～3日

* ビデオ鑑賞(穂高)とビデオ撮影法 本会 6月22日

* 沢登り講習会 東京近郊 7月

* 現地小集会(石間信夫氏と歩く) 未定 7月

* スケッチ山行 上高地 9月

* ハードフリー講習会 未定 9月

* バミール登山報告会 未定 9月

* ビデオ技術指導山行 本会 9月

* 婦人懇談会尾瀬集 尾瀬・長蔵小屋 10月6～7日

* 全国支部懇談会 山形・蔵王温泉 10月13、14日

* 支部事務局担当者会議 " "

* 山の植物を訪ねる山行 未定 10月

* 第23回「山岳図書交換会」 本会 10月

* 岩登り講習会 小川山 10月

* 第27回マラソン大会(学生部) 皇居周辺 11月

* 支部長会議 本会 12月1日

* 年次晩餐会 高輪プリンスホテル 12月1日

* 集会委員会山行 生藤山 12月

* この人と語ろう「和田城志氏」 本会 12月

* スキー集会 八方尾根 1月

* 集会委員会山行 黒斑山 2月

* 氷雪合宿(青年部) 八ヶ岳 2月

* 第19回「山岳史懇談会」 本会 3月

* 山岳スキー講習会(2回) 未定 2月～3月

* 新入会員オリエンテーション 本会 3月

(ロ) 研究会

* 山岳地域における自然エネルギー利用に関するシンポジウム

青山学院大学 5月12日

* 第10回登山医学シンポジウムに協力

アルカディア市ヶ谷 7月14～15日

* エクセントリッククライミング(トランゴタワー、マカルー)

に関するシンポジウム 未定 10月

* 雨具に関するシンポジウム 未定 2月

(ハ) 展覧会

* 第28回「この一本展」 本会 4月20日

(ニ) 講習会

* 登山医学に関する講演会 有楽町マリオン 7月16日

* 山に於ける汚水処理に関する講演会 本会 9月

* 疲労に関する講演会 本会 10月

* 「山を語る」講演会 本会 11月

2. 登山施設の改善、その他登山のための適切な事業

* 上高地山岳研究所の開設及び改築計画の検討 4月～10月

* 山岳と登山に関する科学文献整理(山の科学文献目録追補作成)

オーズ山脈の登山は、ここ五年の間にはじまったばかりである。本年一月この山群の最高峰ヴィンソン(四八九七呎)に、ムグ・スタンプ等の協力を得て最初の清掃登山に成功し、約一四〇*のゴミをチリまで持ち帰った。ムグと仲間のガイド、ダンクルヴァーのClean-up-Climbの素晴らしきアイデアは、南極の聖地を保全するための基礎を確立することができた。

ADNはカナダのヴァンクーバーを基地として南極大陸へのブライベート飛行を運営しており、ヴィンソン登山には過去に十七隊を案内しているが、他にも多くの未踏のピークが残されている。

担当は“no impact—no trace”のポリシーの下、南極への登山の計画をサポートしています。

詳しい情報は左記へお問い合わせ下さい。

Adventure Network International
200-1676 Duranleau Street,
Vancouver, B.C. CANADA
FAX: (604) 683-6892.
Tel: (604) 683-8033 (Y・M)

第10回チェコ山岳映画祭

来る九月十二・十六日、チェコスロヴァキアのMeujiにおいて開催され

る。出品作品は十六ミ、スーパー八ミ、三十五ミ、VHSビデオの何れでもよく、今回はスペクタクル賞、クライマーズ賞、フィルムエクスパート賞の三賞が予定されている。

参加申込み期限八月二十五日

申込み先は左記へ

KASS-FHF 549 57 Teplice rad
Meuji Czechoslovakia.
Tel: 447/93 320 (Y・M)

八千峰十四座完成

本会会員の画家・牧潤一氏がヒマラヤ八千峰十四座をすべて一人で描き上げ、これらが現在、八ヶ岳山麓の白樺高原美術館に展示されている。

牧氏は会報『山』や『山岳』に度々カットを描いてくれていたので、ご存知の会員も多いと思う。

去る六月三日には、この労をねぎらい当美術館でパーティがあったが、その席で、本会の前会長今西寿雄名誉会員は、夏シャモニで開かれるアンナブルナ初登頂四十周年に、八千峰初登頂者の一人として招かれているので、十四座の絵が載っている画集を当日持参して皆に配りたい、と話し出席者の拍手を浴びた。

当美術館の一部には民俗資料展示コーナーがあり、そこにはかなりの名刀

も陳列されていて、虎徹などが鈍い光を放ち、かつてのピッケルを思い起こさせる。入館料五百円。

(岡澤祐吉)

アデレート便り

中村 テル

名誉会員を囲む会に際しての沢山の方からの寄せ書きを嬉しく繰り返し拝見しました。十二月の年次晩餐会でお目にかかるまで、お一人の方も欠けないで丈夫でいて下さいと祈っています。

こちらはそろそろ寒く薪のストーブをたいています。大きな楓の葉が紅葉して広い芝生の上に舞い落ちてきます。

ではお元気で。(六月五日付)

Mrs. Tel N. Satou

12. George St., Unley Park,
Adelaide, S.A. 5061, Australia.
(Phone: 271-1834)

山本朋三郎氏 体育功労章受章

本会前静岡支部長、山本朋三郎氏は、五月十九日、静岡県体育協会より、体育功労者として、功労章を受章した。授章理由としては、戦後、県内各山岳

会を統合、自ら初代の県山岳連盟の理事長として静岡国体を成功に導いたこと、また県の山岳遭難対策委員会を結成し、安全登山の啓蒙普及に尽力した功績が認められたもの。(Y・M)

図書



紹介

ヒマラヤ ペダル越え

深町 達也著

笑ってよ、北極点

和泉 雅子著

生活が豊かになり、そこそこに国際化が進み、誰もができないことをやってみようという日本人が増えてきた。日本は、その経済活動のゆえに今日の豊かさを手にし、しかし、一方ではエコニック・アニマルよばわりされている。だから、カネ儲け以外のことで海外に出て行って活動する日本人において結構、大歓迎というわけで、二冊の本を紹介したい。

『ヒマラヤ ペダル越え』は文字通り自転車を通じて中国側からチベットを通り、ネパール側に抜けるというサイクル・ツアーの体験記。卒業記念の

夏休み旅行とはいえ、準備には相当の時間とカネをかけている。ラサを過ぎてからのいくつかの難関である峠越えの部分は、さすがに迫力がある。チョモランマのベースキャンプまでのみちのり、そしてあこがれのヒマラヤの峰々を前にしたときの感動は、自らの足で到達したことへの感動でもあった。今は長距離離用のいい自転車が出てきたので、昔からくらべれば、ずいぶんと安心して、快適な旅行ができるがそれにしても、体力と強靱な胃袋と、旺盛な好奇心、そして最後にはやっぱり強い精神力が必要だ。

もう一冊の『笑ってよ、北極点』はペダル越えとは対照的な冒険記録。飛行機を使って食糧を運び、無線で通信しながら、ベテランの人材(複数)を雇ってのそり旅行だ。めざす目的は北極点。そりの道をさがしながら、つくりながらひたすら前進してゆくのだが来る日も来る日も氷の状態と、テントの中でどんな生活をしたかの記述がくつかえされている。女優でもある著者は、なぜ女優が北極点をめざすのか、との周囲の問いに、自分でもよくわからないが、とにかく行ってみたい、といい、遂にその北極点に立った時、がんばって、がんばって目標に向かってやり抜く意志こそ大切だということに気づく。

〔自然保護随想〕

一寸臭い話

本紙を読んでいて「ぎよっと」した事があります。Sさんの書いた尾瀬での小便事件です。もし私が同行していたら、並んで連れ小便でもしたかも……という妄想にふと取り付かれたのです。

私が盛んに山へ登っていたのは丁度戦争前後で、世の中は混乱し、街は疲弊しており、毎朝鼻をつまんでしゃがみ込み、奈落へ物を落とすような生活をしていた頃でした。山へ登って何とも言えぬ解放感を味わう事が無上の楽しみでした。山の頂上から天に向かって放水すること、また広い原野できじを射つことも共々山行の楽しみの一つでした。「何所とやらえ番兵たててお花畑できじを射つ。」などとされ歌まで作って歌ったものです。あの頃山には人も少なかつたし、そんな不都合をしても三尺流れば澄む、で済ませられたのでしよう。

だんだん世の中も落ち着き、山へ行く人も増えてきたのにつれて私の足は山から遠のきました。山がだんだん荒れて行く話を聞くにつれますます山に行かなくなりました。昔の清らかな山の印象を壊したくない、なんぞと言うぜい沢な気持ちもその理由の一つでした。

そして私は浦島太郎然と三十余年ぶりに再び山へ行くようになりました。山は人が一杯でした。そして皆楽しそうに登っていました。これは良い事だと思いました。

ペダル旅行の方は、その気になれば可能性はあるが、北極点行きはまずできないこと、というのが読後の感想。

『ヒマラヤ ペダル越え』一九八九

が、山は想像以上に汚れて、荒れていました。山々は自然の浄化作用では処理できぬ状態のようです。またせっかく作ってある便所もオーバーワークなのか、手入れ不良なのか、どこも臭気ふんぶん。

清らかな山を再び望むのは無理としても、多くの人達が何時までも楽しめるような山を保持するにはどうすれば良いか考えました。先ず山へ行く人々のモラルの向上が第一。所かまわずごみを捨ててはいけません。おしっこをしてはいけません。むやみに動植物を取ってはいけません。その他いろいろのいけません。

第二に山で糧を得る人は個人企業団体を問わず、山で稼ぐ権利を主張する一方、山の保全に貢献する責務を持たねばなりません。山を美しく保つため、心のこもった設備、奉仕をお願いしたいものです。

英語で言うコーポレートシチズンシップの考え方をもちと世論として定着させられたら良いかと思っています。

第三は役所でやってももらわねばならぬ問題。例えば尾瀬の下水処理など小屋の負担でとか、入山料を取ってどうこうなど言わないで、今論ぜられてる向う十年間に使う何百兆とかの公共事業投資の中に組み込めぬものですかね。シーズンには日に一万人もの人が行くそうですからまさに都会並み。山で必要な公共事業費はその他もどんどん計上してもらえぬものでしょうか。

(ねぼけまなこの浦島太郎)

年五月 文芸春秋社刊 定価一五〇

円

(田口幸子)

〇円 『笑ってよ、北極点』 一九八九年

八月 文芸春秋社刊 定価一〇〇〇

△ △ △

名誉会員懇談会

五月十九日(土)在京、地方在住合わせて十名の名誉会員、執行部からは正副会長、常務理事、常任評議員を合わせて二十名からなる会合が銀座の交詢社で行われた。

在任一年を迎える会長から、日常は会務に追われ、名誉会員の方々とゆくりご意見をうけたまわる機会もないし、「名誉会員になったからには、後進に任せて、会務については発言を遠慮すべきである」と言った見解もあるやに聞き及んでいるけれども、近年の老人対策は敬して遠ざけることではなく、長老に生き甲斐を持たせることだとも理解しており、若い現場部隊に直接長老からご意見や指示をされることは差し控えて頂くとしても、年と共に若干図々しくなってきた私達には、大所高所から、会の運営について日頃お考え頂いていることを述べて頂くためにこの会を催したことの趣旨説明があった。

ご意見を引きます意味で、過去一年間のできごととして、裏岩登山オリンピックスキーコース、海外登山基金の運用、ヒマラヤの自然環境保護にかかわるヒマラヤン・アドベンチャー・ト

ラスト、会員資格と若返り、高齢化対策、会組織の見直し、名誉会員選考に係る問題等が話題として提出され、これに対して広範囲に亘って出席名誉会員から有益なご意見をうけたまわることでできた。

時間的制約もあって、出席された方々全員のご意見をお聞きできなかったことは、せっかくご出席いただいた方々には申し訳ないことであったが、このような会合だけでなく、折にふれて(例えば土曜会などもそのような場として活用することも考えられる)的確な叱正とアドバイスをお願いしたい。

本社ケ丸 懇親山行

婦人懇談会

五月三日、心配していた空模様も笹子に着いた時は薄日が出て、赤松氏を先頭に駅前の林道を進み船橋沢に沿うように入る。

いつの間にか治山用堤防ができていて戸惑ってしまう。壊れた導標があり尾根にとりつく。胸を突くような急登がしばらく続き、車道を横ぎり雪笹、ツクバネ草、花筏など思ったより花が多く赤松氏よりいろいろ教えて頂き疲れも忘れてしまう。樹林帯をしばらく登り縦や横の稜線に出る(鶴ヶ鳥屋山分岐)。かるく食事をすませたあとは

尾根通し、三つのピークを越せば本社ケ丸である。原生林は緑がとてもあざやかで明るくやさしい。大きく伸びた破れ傘の葉と、まだ幼い矢車草の紅色の葉が美しく入りまじって目を楽しませてくれる。緑の中に浮いたように白い花をつけた大カメノ木がまた美しく、眼前に三ツ峠、御正体そして富士山も見え足も軽くなる。

足下のイワカガミ、フデリンドウが愛らしくひと登りで本社ケ丸山頂である。狭いが三角点があり、富士山を見て「ハイチーズ」。

岩場を少し下り三十分で清八峠に着く。あとはジグザグの赤土の下りで奥野川沿いの林道に出る。沢の水を土産に水筒に入れて甲州街道へ、ここも堤防工事で道が変わり何とも淋しいかぎりである。リーダー始め皆さんの暖かいお心遣いに新会員も楽しい山行でした。

【参加者】

赤松光 大塚玲子 高澤
佐重子 宮澤美緒子 川合愛子 小澤
みち子 菅沼景子 須藤節子 柴田初
子 穴田雪江 原田恵子(原田恵子)

秋田支部総会・山行報告

平成二年度の秋田支部総会は、去る四月十四日午後六時三十分より、田沢湖町の秘湯「鶴の湯温泉」において会

員十四名(非会員を含む) 出席のもとに開催された。主なる内容は次の通り。

○平成元年度事業報告

○平成元年度決算監査報告

○平成二年度事業計画

山行(春・貝吹岳と院内岳、夏・大仏岳、秋・奥宮岳と金峰山)、全国集会(主管は山形)、会報発行二回、その他。

○平成二年度予算案

二十六万円(年会費千円十本会還元金で運営)

○規約改正 慶弔規定(第十八条)を新設。

○支部会員確認

五十五名(新入会員一名、退会一名)以上承認され続いて役員改選、そして恒例の懇親会が夜遅くまで開催されたが、この夜日本テレビ「火曜サスペンス」のロケがあり、入浴シーンに会員が出演するなど、とんだハプニングで大いに盛り上がった。

▽新役員は次の通り

支部長(岡田光行)、副支部長(進藤昭)、常務委員(佐藤兼治、佐々木民秀)、委員(北林嘉鶴子、高橋守、佐藤昭義、宮田菊雄、鈴木要三)、監事(藤原健、打矢道雄)

なお、この日は春山会山行として、仙岩峠真上の貝吹岳に登る予定であったが、あいにくの雨で中止。翌十五日、

もう一つ計画された田沢湖外輪の主峰「院内岳」に登った。

大沢の集落より林道を車で登り、途中より主稜線上の薬師峠まで立派な道を、スイス村から流れるヨーデルを開きながら辿る。山頂の基部よりは道はなくヤブ漕ぎとなるが、今後の登山者のために、山頂の一〇〇メートル近くまで刈払いをする。ヤブと樹木で眺望の悪い山頂で三角点を掘り起し、本年の支部初山行を祝う。
(佐々木民秀)

福岡支部だより

福岡支部の行事は、四季の山行(年四回)と、年次新年会。今春から「岳人のつどい」も始めた。これは福岡支部が世話人を務め、会派・組織にこだわることなく岳人どうしのつながりを求めることとし、多くの人達に声をかけ楽しい懇談の集りとしてゆきたい。三月には公開講演会を開いている。これも会員外にも呼びかけている。平成元年度は「中高年者の登山と健康」について、会員の脇坂順一氏を講師として開催し好評だった。

平成二年二月に「福岡支部事務局だより」の一号を発刊することができた。年三回を目標に頑張りたい。役員会は、毎月第二土曜日の午後開き、支部の着実な運営にあたっている。

平成元年度から、戦後(昭和二十年以降)の九州登山年表の作成を計画し、編集委員会を中心に準備にかかっている。たいへんなことなので、各支部、各山岳会等のご協力を仰がなければならぬのはもちろんである。

今年から、ソ連がカムチャツカ半島のクリュチュフスカヤ山をオープンしたので、平成三年に福岡支部から登山隊を送り出せるよう準備委員会を今年から発足することを決めた。

今後とも、本部・各支部のご指導をお願いする次第です。
支部会員は、平成二年五月末で百十名。
(深田泰三)

熊本支部総会報告

平成二年度の支部総会は、五月十三日(日)午前十一時から、熊本市のNNT会館会議室で十三名(委任二十名)が出席して開催された。

まず奥野支部長の挨拶のあと、支部長を議長に選出して審議に移った。

あらかじめ配付された資料に基づいて、事務局より提出議案の説明が行なわれるという形で審議は進められた。

平成元年度の事業報告のなかでは、支部結成以来の懸案であった支部報第一号の発行が目立った。

また平成二年度予算に関連して、支

今年もさげんで会いましょう

支部報の発行に伴う財源措置として新たに支部費の徴収が提案され、満場一致で承認された。(支部規約改正条文については後日の委員会に一律)

平成二年度の事業計画は次の通り。

○例会

八月二十五日 山の映画会
十月二十七日・二十八日 秋季山行
一月十二日 新年晩餐会
三月二十四日・二十五日 春季山行
日時未定 山の写真展

○支部報第二号の発行

総会終了後、午後一時から別室で懇親会を行った。新緑の美しい庭園を眺めながら、午後の一時をゆっくりとくつろいだ。
(田上敏行)

・会務報告

五月理事会

五月十七日 十八時三〇分
場所 本会議室

出席者 山田会長、村木、藤平両副会長、松田、重広、入沢、穴田、小倉、伊丹、松本、小林、織田沢、石橋、藤井各理事、橋本、小倉、大森各常任評議員、飯野監事

委任出席 西村、山本、早坂、藤本各理事、鳴原常任評議員、太田監事
(1) 海外登山基金、平成二年度助成承認の件

五月十一日開催の海外登山基金委員会の審議結果につき報告があり、申請のあった四件のうち、次の二隊につき助成金の割り当てを行いたい旨説明があり、これを承認した。

① 東海支部創立三十周年記念事業

日中友好天山山脈雪蓮峰登山隊

……一、五〇〇、〇〇〇円

② 高所登山委員会・青年部共催

日本山岳会第一次バミール登山隊

……一、〇〇〇、〇〇〇円

(2) 篠田名誉会員に関する要望書の件

五月十四日付、石岡、石原両会員より再度要望書が提出されたが、この件に関し五月十七日午後、名古屋市内において藤平副会長、橋本常任評議員の二名が東海支部尾上支部長、中世古副支部長をオブザーバーとして、石岡氏と面談した。席上藤平氏より、双方の主張を『山』に発表することにより、本件は終結することにした旨申し出て、種々質疑応答を行ったが、最終的には合意するに至らなかった。

(3) マッキンリー、デナリパスに自記風速計を設置する件

科学研究委員会大蔵委員等が計画している本件については、趣旨については賛同。ただし本日は担当の関口理事が欠席のため、後日内容確認を行ってから決定することにする。

〔注〕 本件 Permite のサインは大蔵喜福会員が行い、会としては、計画を支援している旨の推薦状を発行することにした。

(4) タンポチエ僧院再建募金の件

本会の募金額累計は、二六六万円に達したが、日本側の募金目標の一〇〇万円には程遠い。近く工事が着工のことなので、日山協も含めて何とか五〇〇万円を目標に募金の追い込みにかかりたい旨、伊丹理事より説明があった。

(5) 各委員会報告

●自然保護(松本)

六月十七日、富士自然観察山行。七月十七日、村木副会長を講師に講演会を予定。

●資料(織田沢)

国土地理院の「写真と地図で見る日本の山岳展」については、武田久吉、中村テル両氏愛用の地図保管箱と、ヒマラヤの地図を出展した。

●総務(藤井)

本年のルームの夏期休室は八月十三

十八日としたい。

●山岳(大森)

原稿依頼を行ったが返事がなく困っている。海外登山記録については、伊丹理事が協力することにする。

●山研(石橋)

四月二十八日～十月二十七日、開所の予定。

●集会(入沢)

六月九～十日の若葉会山行は、東京から四十名、現地十八名が参加の予定。指導者賠償責任保険は、四月二十五日に加入調印を行った。

●高所(重広)

アルパイン・スタイルでマカールーを目指していたメンバーの中、大西宏氏が登頂した模様。

●会報(小倉)

各委員会の行事報告は、必ず送って欲しい。

(6) その他

① 五月二十六日の支部長会議の議事内容についての最終確認。

② 五月十九日開催予定の名誉会員を囲む会の概要説明。

③ ヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラストの準備

五月十四日に予備打ち合わせを行ったが、五月二十九日に次の打ち合わせを行う予定。

④ シャモニーのアンナプルナ登頂四十

年祭には、マナスル登頂者の今西寿雄、日下実両氏が出席の予定(他に田部井淳子氏も招待されている)。

⑤ 田中三郎会員より、本会制定の「三百名山」をガイドブックに使用したい旨望月名誉会員を通じて連絡あり、本件了承する。

⑥ 富山県山岳遭難対策協議会中沖豊会長(富山県知事)より五月十四日付「山岳遭難事故防止について」の依頼文書が届いたので『山』に全文を掲載して、会員各位に伝えることにする。

―支部長・支部事務担当者合同会議―

平成二年五月二十六日(土)
十時～十五時三十分

場所 東京平河町 全共連ビル会議室

出席者 山田会長、村木、藤平両副会長、総務担当、松田、藤井理事、中川、南川、坂本総務委員、八北海道ノ藤野、中嶋、八岩手ノ佐藤、二上、八秋田ノ岡田、佐藤、八山形ノ村上、八宮城ノ庄司、佐々木、八福島ノ中嶋、野地、八越後ノ佐藤、山田、八信濃ノ赤羽、金子、八山梨ノ齊藤、八静岡ノ安間、横井、八東海ノ湯浅、徳島、八岐阜ノ松井、高木、八京都ノ岩坪、上原、八富山ノ若林、石坂、八石川ノ小林、徳田、八関西ノ阿部、水谷、八山陰ノ吉川、中井、八福岡ノ権藤、深田、八熊本ノ奥野、本田、八東九州ノ梅

木、西、八宮崎ノ、魚本、服部

他にオブザーバーとして松本、織田沢、穴田の各理事、大島、小倉、吉村、井上の各評議員 以上五十四名

▼議事

(1) 会長挨拶……………山田会長

(2) 会務報告ならびに要望事項…松田常務理事

昨年十月、米子で開催の支部事務局担当者会議の席上、年二回開催の支部長会議の中、一度は事務担当者会議と合同で開催して欲しい旨の要望であったので今回の合同会議を開催したとの説明があった後、総務担当理事の立場で、支部との関連での報告ならびに要望事項が述べられた。

すなわち、本会には昭和四十一年四月に制定された支部設立並びに運営等に関する規定がある。これは支部運営のガイドラインである。この第十三条に、支部総会の開催時期が四月十五日迄となっている。これは五月十五日迄と改訂致したい。

支部役員の呼称等についても、この規定に準じて決めて欲しい。また副支部長については、この規定にふれられていないが、必要であればつけ加えたい。支部還元金については、本日配付のコンピュータで出力した支部会員の名簿にもとづいているので、確認して欲しい。

これに対し、支部側より「支部設立ならびに運営等に関する規定」の中には、実情にそぐわない点もあり、支部の自主性を抑えるような箇所もあるとの意見が述べられた。これに対し松田理事からは、この規定の第三章「運営」に関する部分は、支部運営上のガイドラインであり、その点をご理解の上実施して欲しい旨の回答があった。いずれにせよ、本件は次回の会議までに再検討を行い、慎重にすすめることにする。

(3) 支部現況報告……………各支部長

配布資料にもつき説明があった。この中、本年度より支部長、事務担当者の変更になった支部は次の通りである。

▽支部長交替

(北海道) 橋本誠二→小須田喜夫
(山陰) 港叶→吉川暢一
(東九州) 故野口秋人→梅本秀徳
(東海) 尾上昇→湯浅道男
▽副支部長を置いている支部

(北海道) 芳賀孝郎、佐々木孝雄、
(秋田) 進藤昭、(福島) 川又恒一、
(越後) 上村幹雄、(信濃) 田中弘美、
(東海) 鈴木常雄、野呂邦彦(京都)
岩坪五郎、(福岡) 吉村健児(東九州)
宇都宮隆史、(熊本) 本田誠也、(宮崎)
大谷優

▽事務担当者交替

(北海道) 平野明→小林年
(信濃) 田中弘美→金子丞二
(岐阜) 藤井洋→高木基揚
(京都) 四手井靖彦→杉山イタル
(山陰) 井上豊重→中井俊二
なお本年度の支部主要行事としては、次のような計画がある。

(山形) 10・13・14 全国支部懇談会
(越後) 6・16・17 海谷山塊の駒ヶ岳
親睦登山、「越後山岳」復刻版の発行。
(信濃) 6・2・3 第四十四回ウエス
トン祭の開催。

(東海) 支部創立三十周年記念海外登山隊二隊を派遣、『名古屋から見える山々』記念出版。
(岐阜) 支部創立二十周年記念恵那山登山。
(京都) ヒンズークシュ登山の実施。
(富山) 平成三年度の全国支部懇談会は91・9・15・16立山で実施する。
(関西) アンナプルナ登頂四十周年講演会を開催。

(東九州) 支部創立三十周年行事、11・3・4 由布山登山、『大分百山』の刊行。
(宮崎) 11・2・3 宮崎ウエストン祭
(秩父宮殿下祖母山来山七十年記念)

▼討議事項

(1) 高齢者対策ならびに若返り対策の件

高齢者対策については、現行永年会員、終身会員制でよい。

会友制度・準会員制度については、現在各支部で採用している。扱い方・考え方については、必ずしも一致してはいないが、主眼とするところは、支部員の増加、若返り等が考慮されている。この点については、支部それぞれ事情もあるので、会としての制度とせず、当面は支部の自主運営にまかせたらどうかということで意見の一致を見た。

(2) 自然保護に関する考え方について

村木副会長より、自然保護に関する会の意見をまとめるという意味ではないがという前置きをして、日頃考えていることについての考えが述べられた。要旨は高い処から自然保護を論ずるのではなく、登山者も自然破壊の一部を担っているという自覚の下に、現地の事情、人間の生活を十分考慮に入れた活動であって欲しいというものであった。これに対し各支部長から種々の意見が述べられた。

現在、全国各地でリゾート法等に関連して種々な問題が起きているが、これらはケース・バイ・ケースで処理していく必要があり、支部とのコミュニケーションをより緊密に行う必要があることが再確認された。

(3) 山に関する情報を交換できる体制づくりの件

総務委員会、南川委員より、会員サービスの一環として、各支部の協力を得て、その地域に詳しい人材をリストアップして、山岳情報サービスの提供ができないものかとの提案理由の説明があった。これに対し各支部長より、その気になれば、各県市町村の観光課等で聞くこともできるし、本来山登りは自分で調べてから出掛けるべきであり、そこまで会がする必要はない。それよりも、会としては、本来あって然るべき、国内外を含めた山岳情報管理システム(文献のコンピュータ化等)を作るべきではないか、との意見もあり、必ずしも賛成は得られなかった。

(4) その他の意見・要望事項
宛名カードの支部への提供、住所変更者の支部への迅速な連絡、還元金額の事前連絡等についての要望があり、実施できるものについては、直ちに実施することにした。

最後に湯浅新東海支部長より、さる十八日に開催された支部総会の報告があり、席上、石岡、石原両会員より、緊急動議の形で「篠田名誉会員取消しを提案して欲しい」との要望があり、支部長一任の形で、支部総会を終えたので事情を説明させて欲しい旨の発言があり、石岡会員の反対理由、支部としての立場等について、詳細な説明が

あった。

これに対し、山田会長、藤平副会長より、会としての見解が述べられた後、定刻三時三十分、会議を閉会した。

新支部長紹介

平成二年度より次の四名の支部長が新たに選任されましたのでご紹介致します。

北海道支部 小須田喜夫氏

会員番号三五九三番。札幌山岳会の元老。尖鋭的クライマーとして支部員の人望も篤い。戦後いち早く厳冬の日高・中ノ岳登頂。冬の知床、利尻岳、マツキンリー・カシシリッジの登攀など、現在も積雪期の山に挑んでいる。

東九州支部長 梅木秀徳氏

会員番号五九〇八番。昨秋物故された野口秋人支部長の後を受けて、本年四月の支部総会で選任された。野口支部長在任中より副支部長を務めていたので、支部の内部には精通している。大分合同新聞社の文化部長、論説委員等を歴任され、現在は編成局長の要職にある。

著書に『大分の山―大分県主要山岳丘陵一覽』(一九八七年)がある。

山陰支部長 吉川暢一氏

会員番号七〇三四番。前支部長港叶氏の勇退に伴い、本年四月の総会で選任された。メンバーを一新した新執行

部の牽引車として今後の活躍が期待される。

東海支部長 湯浅道男氏

会員番号六二一四番。十三年間の長きに亘り支部をまとめてきた名支部長の尾上昇氏の辞任に伴い、本年五月の支部総会で選任された。現職は愛知学院大学法学部教授。本年は支部創立三十周年に当り、二つの海外遠征を含めて多彩な行事が計画されているが、難問山積している支部のまとめ役として大いに期待されている。

ルーム日誌

(5月)

- 7日 総務委員会
- 8日 婦人懇談会
- 10日 青年部
- 11日 海外登山基金委員会
- 15日 山研委員会
- 16日 常務理事会、三水会
- 17日 理事会
- 18日 科学委員会
- 21日 総務委員会
- 22日 自然保護委員会
- 24日 総務委員会
- 28日 図書委員会
- 29日 ヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラスト会合

5月来室者320名

会員異動 5月

退会

- 神戸 恵子(八九六〇)
- 東原 実(八四七五)
- 山本 信樹(五一九九)
- 水井 謹作(七七三一)
- 小林 義雄(九八七五)
- 笹川 敏夫(五三九一)
- 齊藤 林久(一〇一四〇)
- 玉島 利一(七四四一)

終身会員

- 山口 滋嗣(三六四〇)
- 白旗 史朗(六〇六八)
- 永田 好行(三七三〇)
- 赤羽孝一郎(三八〇二)
- 勝田 房治(五〇二九)

タンポチエ僧院再建協力

募金者ご芳名

- 三十四万円―照光寺青年部代表・林新一郎。三万円―成田孝英、坂本観晃、三渡忠臣。二万円―村松賢英、亀井秀子。一万五千元―穴戸一匡。一万二千円―東京星稜山の会。一万円―風見武秀、鈴木郭之、麻布真海、斉藤价洲、沢本武、鶴見友雄、須浪敏行、池田吉春、山田耀一、和田峯夫、小谷清、小谷美恵、山塚康雄、武原嘉雄、浦住雅英、菊池進、太田ユキエ、加藤実、佐藤ヨシ子。五千元―山田昭一、塚本福



234-665

この電話でもお知らせしています

警司岩の講演会と探索山行

今年度の探索山行は、蔵王の地形をテーマに左記のように二口温泉に出かけ、表警司や裏警司の講演を伺ったあと、翌日は大東岳または裏警司に遊んで紅葉を愛でたいと考えています。ふるってご参加下さい。

記

日時 平成二年十月二十・二十一日

集合 十月二十日(土)午後五時 二

口温泉登山荘 仙台駅発宮
城交通バスで二口温泉行

講演 午後五時半～六時半
講師未定

探索山行 十月二十一日(日)

コース A 大東岳登山

B 裏磐司紅葉探索

費用 会員一万円、非会員五百円増
(一泊三食、保険料含む)

申込み 氏名、年齢、会員番号を記し
て平成二年九月三十日までに

日本山岳会科学研究委員会宛
* 詳細については後刻参加申込者に
連絡します。

科学研究委員会

〔現地小集会〕

上高地スケッチ山行

集会委員会

久しぶりのスケッチ山行です。絵は
苦手という方も講師を招きますので挑
戦してみませんか。いつも素通りする
上高地の新しい魅力を発見されること
でしょう。

集合 九月十五日(土)午前七時三十

分 上高地山岳研究所

解散 九月十六日(日)午前中現地解

散

宿泊 上高地日本山岳会山岳研究所
講師 後藤三男氏(JAC会員、二

元会々員、山岳画家。国内の
みならず海外でも精力的に制
作にとりくみ、個展、団体展
を通して積極的に作品の発表
を行っています。

費用 会員一万円、非会員一万一千

円(宿泊、飲食、講師代含)。

ただし、九月十五日朝食は
持参下さい。上高地までの交
通は、各自手配下さい。

定員 二十名

参加申込 八月十五日までに事務局
へ。先着優先、参加申込者には
計画書を別途送付します。

平成二年全国支部懇談会山形集会
日本山岳会『90歳王の集い』

— 山形支部四十周年記念 —

期日 十月十三～十四日(土・日)

場所 蔵王(地藏山、熊野岳)

会場 蔵王アストリアホテル

日程 十月十三日(土) 受付午前十
時、支部事務担当者会議、蔵

王セミナー、支部懇談会

十月十四日(日) 登山

会費 一八〇〇円(宿泊、懇談会、

記念品、露天風呂入湯券、ロ

ープウェイ乗車券、十四日昼

食等)

申し込み 九月三十日まで

相談・問い合わせ先

990山形市肴町一―三山形城北女子高
等学校 菊地俊彦氏付 日本山岳会山
形支部全国集会事務局

☎〇二三六―四五―三三七七

予告

自然保護全国集会

日時 九月十五～十六日

場所 三島市「箱根の里」

集会の後、柿田川湧水群、函南原
生林等への自然観察行を予定してい
ます。

各支部自然保護担当委員の他、一
般会員の皆さまの参加を歓迎しま
す。

詳細は次号でお知らせします。

自然保護委員会

●尾瀬全国集会申込みは

八月二十五日までです。

婦人懇談会

秋の一日、尾瀬に集り、登ったり歩
いたり、自然保護の話題など、会員同
志の親睦を深めましょう。くわしくは
本紙四月号に掲載しましたが、

十月六日(土) 尾瀬沼長蔵小屋一泊

夕刻までに到着して下さい。

会費 七千円(宿泊費、雑費)

現地解散といいたしますので、前後の
コースは自由ですが、

六日朝 東京より大清水行き 一台

” 沼山峠行き 一台

七日午後大清水より東京行き 一台

の貸切りバス三台を出します。

なお、沼山峠発の定期バスを午前に
乗車すると、会津高原駅經由東武線浅
草にはその日のうちに着きます。

八月二十五日までに、はがきで事務
局まで申し込んで下さい。男性の方も
是非ご参加下さい。

バスを利用希望の方は片道か往復か
そのコースを記入して下さい。

バス料金、時間など詳しい返信をい
たします。(八月下旬～九月上旬発送)

問合せ 〇三―九二五―五五三三

穴田雪江(夜間のみ)

●JAC夏の

恒例ビアパーティー

期日 九月一日(土)

場所 日本山岳会集会所

会費 二千円

婦人懇談会

●現地小集会「石間さんと山歩き」

昨年、一昨年と静岡・石間信夫さん
のお話をうかがいました。今年は一緒
に山に登りながら石間流山歩きのお話
をお聞きたいと思っています。

期 日 九月三十日(日)

場 所 子持山(一二九六・四畝)

お申し込みはハガキで事務局内集
委員会までお送り下さい。計画書をお
送り致します。

集 会 委 員 会

◎マップモニター募集のお知らせ

国土地理院では、このたび、二万五
千分の一地形図に関する情報、意見を
提供して貰うことを目的に、マップモ
ニターを募集することになりました。
募集の要領は大略次の通りですが、
会員各位の中で、ご希望の方は、国土
地理院宛直接お申込み下さい。

記

◇公募の目的

わが国の全土を覆う最も大きな縮尺
の地図二万五千分の一地形図の内容に
ついての情報、意見等の提供。

国土地理院では現在、関係市町村か
ら、情報を受けたり、航空写真を撮影
したりして、地図作成後の変化を調べ
ているが、山岳地については、必ずし
も充分ではない。そこで実際に地図に
興味を持ち、地図を利用されている方
を、マップモニターとして活用したい。

◇マップモニターの資格要件

地形図の愛好者、利用者でボランテ
ィアとして地形図に関する情報の提供
を行う意志のある高校生以上の人。

◇モニター委嘱期間

原則として一年間(但し延長可)、
無報酬。

◇公募の時期

平成二年七月一日～八月末締切り。

マップモニターを希望される方(団
体も可)は、住所、氏名、年齢、電話
番号、勤務先(または学校名)、二万
五千分の一地形図の主な利用目的、マ
ップモニターを希望する理由および地
域(地形図の図名、市町村名等)を記
入し、葉書または封書で八月末日まで
に左記宛にお申し込み下さい。

十月初旬、直接本人宛に委嘱の通知
がある予定です(応募者が多い場合に
は、書類選考で選ばれます)

〔送り先・問い合わせ先〕

〒305 つくば市北郷一番、建設省国土
地理院 マップモニター係

Tel: 0298-64-1111 (内線527)

平成二年七月二十日

102 東京都千代田区四番町五一四

サンビュウハイツ四番町

発行所 法人 日本山岳会

発行者 山田二郎

編集代表 小倉厚

電話 東京(03)四四三三

振替口座 東京三〇八二九番

東京都港区赤坂一〇三六

印刷所 株式会社技報堂